

戰時下の幼兒の身體的缺陷と其の對策

東京市幼稚園保育研究保健部

麹町幼稚園 柴田みどり

大東亞戰爭も海に陸に赫々たる戰果を擧げつゝ、早第二年目さなり今や勝ち抜く爲に總てが戰つてゐる、支那事變始つて以來五星霜、此の長年月に戰爭は幼兒に何を與へたであらう。幼兒の精神に、健康に餘り顯著な惡影響が及ぼされた事は認め難いが、然し戰ひは尙ほ今後にあり、事態は益々急を告げて來た。此際幼兒の身體について、備へるところがなくてはならない。榮養の缺乏や傳染病の流行は、幼兒の生活を必ず脅す事であらうが、是に懼れる事なく、寧ろ是等に打勝つ精神を以て、事に處したならば必ずや今後戰爭のもたらす惡影響より救はれ得る事と信ずる。次に消極的と積極的の方面よりその對策を記す。

一、健康診査（ツベルクリン反應検査）

日本は從來結核國とまで云はれる程の高い結核死亡率を有してゐるが、近年結核豫防施設の増加と共に多少ながら、その効果が顯れつゝあつた際、支那事變は勃發したのであ

る。戰爭による結核の増加蔓延は當然考へ得る事である即ち田園青少年の都會集注、工場、寄宿舎等の生活環境の變化、勞働力の強化と過勞、手不足の爲の體力劣弱者補充、戰場に於ける發病、感染等原因する處明白である。しかるに幼兒は結核に對して抵抗力が弱い、其の上都會は田舎に比較して結核菌に接觸する機會が多いのであるから到底感染から幼兒を護る事は出来ないを考へなくてはならない。元來結核はその發病の原因する處、初感染時の取扱ひ如何に依ることを云はれてゐる。定期身體検査に於ては唯醫師の聽診器での検査であるから、是の大切な初感染期も無自覺、無症狀の結核も無視してしまふ危險は實に大きいのである。この際幼稚園で毎年一回以上の健康診査法を實施し、結核の豫防、蔓延防止を計ることは現在國家の政策要求に添ひ、實に急務中の急務と信ずる。

方法

第一表 東京市學齡前幼兒ツベルクリン
反應陽性率

種別 地域別	検査人員 (男 女)	陽性者	%	要治療 核
牛込區	1,680	244	14.5	8
品川區	3,657	581	15.9	24
向島區	3,466	498	14.3	15
計	8,803	1,323	15.0	47

第二表 郡部就學期幼兒ツベルクリン
反應陽性率

	年 齡	男		女		計	%
		検査人員	陽性率	検査人員	陽性率		
		東京府	町	5歳	120		
	6歳	107	11.2	123	14.6	15.0	
	5歳	132	1.5	106	3.7	2.5	
	6歳	134	8.2	126	4.8	7.4	
千葉縣	市町村	5歳	3.2—20.			8.0	

- 一、毎學期又は毎年ツベルクリン皮内注射検査を幼稚園に於て實施すること。
- 二、陰性反應兒(未感染者)は毎期陽性になるまで行ふこと。
- 三、陽性轉化者(初感染兒)に對しては、
 - イ、エックス線診断、ロ、喀痰検査、ハ、赤血球沈降速度検査を行ふこと。
- 四、初感染兒に對しては、(取扱方法)
 - イ、一ケ年、又は二ケ年間の攝生養護をなすこと
 - ロ、睡眠を充分せらるること
 - ハ、學童に對しては學業の負擔を軽減すること

- ニ、過激な運動を避けしめること
- ホ、榮養の合理的配合をなすこと(脂肪の攝取)
- 五、結核に對する衛生訓練(躰)をなすこと。
 - イ、咳嗽、嚏をする時は人の面を向つて決してしない。
 - ロ、咳嗽、嚏をする時は必ずハンケチ、手拭ひ、紙を口に當てること
 - ハ、日光浴、偏食矯正、正しい睡眠による休養、全身の抵抗力を高めること
- 六、要治療結核兒は休園せしめる。
- 二、傳染病の對策
 - 一、幼兒期から學童期にかけて、一番種々な傳染病に罹り易いが、治療、看護の資材不足の今日「病氣に罹らない」云ふ工夫がまづ必要であらふ、この爲種々な傳染病に對する免疫になる事が賢明な方法である。
 - イ、種痘
 - ロ、デフテリーの豫防注射
 - ハ、百日咳の豫防注射
 - ニ、腸チフスの豫防注射又はビリワクチン内服
 - ホ、赤痢、疫痢のビリワクチン内服
 - ヘ、麻疹の豫防注射
 - 二、傳染病の傳染蔓延を防ぐ爲に、早期發見に努め、隔離を嚴重になす、家庭の注意を喚起し、一層公共の精神を以て、放置、隠蔽せぬ様指導すること。
 - 三、手洗ひ、含嗽、衣服の清潔等消極的な方法も賤しめて行ふこと。

三、營養缺乏の對策

營養の問題は最も重大且つ深刻であるが、家庭に俟つところが多し。然し幼稚園でも場合に應じ、實施出来る條件に於て、出来るだけ營養補給に努むべきである。

方法

一、偏食矯正

お辨當を残さず食へること、雜食即ち何でも食へること、家庭に對しては營養素を損はず且つ合理的配合の調理法を指導すること。

二、味噌汁給與

これは偏食矯正にもなり、營養補給にも、現在行ひ得る最善な、しかも簡単な方法である。給食に困難な幼稚園は味噌汁だけでならば現在の狀態でも實行出来るから是非やりたいものである。即ち大豆の含む營養素植物性蛋白質は發育期に於ける幼兒の體蛋白(發育の爲消費する蛋白)を補ふ爲に三食に必要な大切な役目を充分果すのでみそ汁に動物性蛋白(煮干)を入れ、馬鈴薯、青菜、わかめ、芋等を用ふれば尙ほ良い。

三、田園共同炊事の方法も如何かと思ふ。

三、咀嚼訓練

よく嚼むことは分量の不足、營養の不足の點を充分に補ひ得るに共に消化機能を健全にすることが出来る。今後

玄米食になれば當然咀嚼訓練は實行される事と思ふが。

四、日光浴(太陽の直射光線による)

ビタミンDは日光中の紫外線によつて、賦活されるものである、太陽も又營養補給に大切な役目のあることを忘れてはならない。

五、營養劑の補給飲用

食品材料の偏在から缺乏勝ちな營養素を添加し、幼兒の肉體の發育に必要な諸營養素の補給にも幼稚園で取扱ふことは、みんな必ず飲む、いやでも飲む、忘れず飲む、と云ふ點から良い方法ではなからうか。夏期はビタミンB、冬期はビタミンAの配合されてるものが適當であるが、ある程度、幼兒が喜んで續けて服用出来るものを選ぶ方が好都合である。

四、積極的に身體の鍛練を行ふべきこと

子供の問題で戰時國家が最も強く要望してゐる處は身體を強く、丈夫にすることであらふ。まづ「ツョイコ」にならなければならぬ。勝ち抜く爲には頑張れる氣魄と體力がなければならぬ。そこで幼稚園と家庭とが一致して、積極的に幼兒に働きかけ、親も子も精心する心構へで次の各項を實施され度い。是等は今迄誰にも云はれ常識となつてゐるが、今新たな意味に於て實行せられ度い。

一、日光浴、空氣浴

太陽の直射光線は健康増進にも病氣の豫防にも絶對の效果あるもので、保姆は保育の一日を、いかに日光の中に暮すべきかを、苦心すべきである。

イ、戸外保育、四季を通じて努めて戸外即ち園庭、屋上に出る事。但し夏は帽子をかぶり長時間にわたらぬ様、冬は手袋、靴下等を去り皮膚を多く曝すやう。

ロ、園外保育、紫外線に浴し、新鮮な大氣を呼吸し得る郊外には出來得る限り屢々幼兒を運出すこと。

ハ、裸體による日光浴、三月末より五月下旬九月より十一月初旬までの二期は晴天にも恵まれ氣温も適當で日光浴に良い時期である簡單な風除けを設備して半裸體(パンツだけ)で十分二十分行ふ。

二、乾布摩擦、徒手摩擦は皮膚の抵抗力を高めひいては身體の抵抗力を増し薄着に慣れ感冒の豫防にもなる。

四、運動

イ、脚の鍛練、歩く事によつて全身の發育を助長する最も簡單に何處でも行ひ得る方法である。方法、運動場、屋上、附近公園、神社等近距離より次第に遠距離にし、二杆前後の往復程度で毎週一回又は二回云ふやうに計畫をたて、實行する、但年齢、環境によつて斟酌、考慮するこゝに

ロ、棒登り、鐵棒あそび、胸廓の發達を計り取扱ひ方法

により克己心の涵養もなる。方法、棒登り競争、鬼ごっこ、廻轉、飛び付き、懸垂競争等、個人遊びに委せず團體遊びにしても取扱ひ、適當な指導を與へること。

ハ、砂場ではだしになること。扁平足の矯正にもなり幼兒も喜んで行ふことであるから春、夏、秋は砂あそびにも相撲の際も、幅飛びにも、男女も靴下なしで遊ぶ。…以上の運動は全市各幼稚園の實行してゐる健康保育の中で特に東京市技師岡田博士が幼兒に適當であること選擇、推奨下さつたもの

イ、夏から始める、半裸體となり乾いた手拭で全身を赤くなるまで擦る。

ロ、年長組を幼稚園で指導し、冬期になれば家庭で起床時に行はせる。

三、早寢、早起、正しい休養(睡眠)によつて幼兒の疲勞を恢復せしめる。

方法、早寢早起グラフを母親に記入させ、正しい標準を示して家庭を指導し、實行させる。

いづれの何處の幼稚園でも實行出來る様、考慮して選ばれたものであるから、一つでも徹底的に、科學的計畫のもに實施したらば幼兒にまつて幸福であり、保育報國の一端にもならう。